

## 吉野林業の歴史と山を守り続けた思いを伝承する

川上さぶり（川上産吉野材販売促進協同組合） 奈良県吉野郡川上村

### ■さぶらう山守達が林業の存続をかけて立ち上がる

川上さぶりは、「山守<sup>やまもり</sup>」と呼ばれる木材業者が中心となって、建築素材として優れた吉野材の需要喚起のため設立した川上産吉野材販売促進協同組合の愛称。「山守」とは、吉野林業特有の制度で、山林所有者から林地の管理を委託され、植栽や手入れ、間伐等の指揮管理まで林業の経営・技術全般を担う現場責任者のこと。

仕える人の傍らに常にひかえ、いざという時に働く「さむらい」の語源である「さぶらう」者に、山に仕える山守の姿を重ね、山守が良質な吉野材をサプライ（供給）することから「川上さぶり」という呼称が生まれた。

低迷する国内の林業・木材加工業の活性化を図るべく、川上村の山守達が2000年に同組合を設立。ハウスメーカー、工務店、設計事務所等と協力して、吉野材を供給する新たな仕組みづくりに乗り出した。

### ■加工から販売まで一貫した供給システムを構築

2003年、同組合は二次加工設備及び超高温高速乾燥機を導入。かつては全国各地へ原木のまま輸送していたが、同組合にて伐採から高次元加工・製材を手掛けることで、ハウスメーカーや工務店など施工現場が使用しやすい形で提供できるようになった。

7軸式高性能モルダールにより柱、板などの各種加工において高い生産性と美しい仕上がりが両立。さらに、超高温高速乾燥機は蒸気と高周波でハイブリッド乾燥を行い、乾燥期間が短縮された。今では含水率20%未満、強度の指標であるヤング率は90以上の高品質木材が短期間で納品可能である。

また、地元産材を地元で加工から販売まで一貫して行うことで、輸送費等のコストダウンが図れ、

適正価格が実現。流通経路が明らかな強く美しい吉野材を安定して供給できるようになった。

### ■様々な工夫や努力で木の素晴らしさを発信

林業・木材加工業界は高齢化が進んでおり、同組合も同じ状況にある。長年培った技術や経験による勤はいつまでも衰えないが、作業にかかる身体的負担は年々増加する。代表理事の上嶋逸平氏は「高齢化は仕方ない。シルバー世代ができるだけ長くいきいきと働けるように」と、(株)ATOUN（奈良市）が開発した腰の負担を和らげる効果のあるアシストスーツを作業者のために導入した。これにより、重い木材を機械に送る作業等が楽にこなせ、「若<sup>うえしま</sup>アシストスーツ着用による作業の様子返った気分になる」と好評だという。



アレルギー等の問題から「自然志向」の声が広まり木材住宅が注目されている。同組合は、山の文化を理解する工務店やハウスメーカー等と共に、木の素晴らしさを発信し続けてきた。「今の自分たちがあるのは、山や山・木を守って来た人々のおかげ。子や孫を育てる気持ちで木を育ててきた。吉野材の良さを多くの人に体感してもらいたい」と上嶋氏は話す。（八木陽子、吉村謙一）



周りは吉野杉の香りが漂う。2019年4月、製材新施設が本格稼働予定。

### 川上さぶり

〒639-3541  
奈良県吉野郡川上村東川 758-1  
TEL: 0746-53-9988  
FAX: 0746-53-9888  
URL: <http://yoshinoringyo.jp/suppli/>



上嶋 代表理事